

様式4

平成24年度 第2回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取聾学校  
 学校長 後藤 裕明

評価日	平成25年2月28日(木)			
委員	氏名	性別	資格・所属など	委員長
	田中 道春	男	国府町自治会会長	○
	中林 公子	女	県教育センター相談員	
	諸家 紀子	女	県ろうあ団体連合会会長	
	山中 俊弘	男	元県立鳥取聾学校PTA会長	
	林 明美	女	県立鳥取聾学校PTA会長	
評価・提言			学校の所見・改善策等	
<b>1 第1回提言を受けての改善点の報告</b> <b>(1) 学校運営の重点</b> 先生が増えたことによって、どこに重点をおいて学校運営を組織しているか。  <b>(2) 地域支援部のあり方</b> 地域支援部は対外的な活動をしているが、他学部と地域支援部の連携はどうか。  <b>(3) 学校自己評価</b> 高等部の学校自己評価の表記が抽象的である。  <b>(4) コミュニケーション能力の育成</b> 聾学校に新しく来た先生に、早くコミュニケーションのもととなる手話力をつけてほしい。  <b>(5) 社会性の育成</b> 聞こえないことによって、マナーが身につかない。 (例) ドアの閉め方、廊下の歩き方等  <b>(6) 手話力の早期定着を</b> 小学部卒業までキューサインで授業を進めると、大きくなってから聾者とコミュニケーションがとれない。なるべく、早く手話が身につくようお願いしたい。			<b>1 第1回の提言を受けての改善点</b> <b>(1) 学校運営の重点</b> 教員を学部固定するのではなく、学部をまたがって配置した。他学部に行くと、気づくことがある。先生の持ち味が生きる配置を心がけた。  <b>(2) 地域支援部のあり方</b> 地域支援部は、授業を受け持っていない。3名は乳幼児の指導にあたり、2名は学校へ出かけて指導している。乳幼児担当は、幼稚部の教育につながるよう連携を図っている。  <b>(3) 学校自己評価</b> 検討したが、今年度は年度当初学部で共通理解を図っているので、改善はしなかった。  <b>(4) コミュニケーション能力の育成</b> 聴覚障がい者理解のために着任者研修を9回実施した。また、手話研修会、朝の日直によるワンポイント手話等で手話力がつくようにしている。今後も続けたい。  <b>(5) 社会性の育成</b> 高等部の生徒が買い物に行った時、買い物ができない、聞けないという実態がわかった。折に触れ、指導していく。  <b>(6) 手話力の早期定着を</b> キューのよさと手話のよさがある。発達段階と個人差に応じた指導をしていきたい。	

<p>(7) 非常事態に備えて 避難訓練を拝見したが、校長室や応接室等に警報機（パトライト）がない。また、文字情報の提示もほしい。</p> <p>(8) いろいろなコミュニケーション手段を 社会に出ると、いろいろな方と接する。コミュニケーション手段のいろいろな方法を教えてほしい。</p> <p>2 平成24年度末学校評価について</p> <p>(1) 各学部重点目標の達成状況について説明 ○地域支援部 ○幼稚部 ○小学部 ○中学部 ○高等部</p> <p>(2) 保護者、児童生徒のアンケート結果について</p> <p>(3) 学校関係者評価委員による評価について</p> <p>3 質疑応答</p> <p>(1) 小学部の評価について ・目標と目標のための政策、そして評価との整合性はどうか。</p> <p>(2) 進路指導について ・進学指導ではなく、進路指導の大切さを考えていくことが大切である。</p>	<p>(7) 非常事態に備えて 防災設備の会社と連絡を取った結果、廊下の警報機（パトライト）で対応できるということだった。また、文字情報については、活用できるようにした。</p> <p>(8) いろいろなコミュニケーション手段を いろいろな場面で、生活力、自立して生きていく力をつけていくように実践した。 (例) 社会人講師、マナー講師の活用等</p> <p>2 平成24年度末学校評価について</p> <p>(1) 各学部重点目標の達成状況について説明 ①確かな学力の定着を図る学習指導の充実 ②豊かな心と健やかな体の育成 ③よりよい社会参加に向けての豊かな自己表現力の向上 に視点をあて、学部・校務部反省を説明した。</p> <p>(2) 保護者、児童生徒のアンケート結果について ・中間評価の結果を活かして、改善に取り組んだ。 ・改善が見られた項目が多かったが、逆に評価が下がった項目があった。</p> <p>(3) 学校関係者評価委員による評価について ・多くの項目で、よい評価をいただいた。しかし、C評価もいくつかあり真摯に受け止めている。</p> <p>3 質疑応答</p> <p>(1) 小学部の評価について ・コミュニケーションや家庭学習については、中間評価で反省を行っている。 ・中間評価を受けて、家庭学習という目標設定より学校で取り組めることに目標を変更し最終評価を行った。 ・御指摘いただいた点は、来年度へ生かしていく。</p> <p>(2) 進路指導について ・御指摘のとおりである。 ・本校で小さい頃から育った子どもは、進路指導を適切に実施していくことができる。しかし、途中から本校へ転学してくる子どももいるので地域の学校と連携を密にしていける必要を感じている。</p>
---	--

<p>(3) 集団の中でのかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同年齢・異年齢等での友達とのかかわりを身につけさせることが大切ではないか。</li> </ul> <p>(4) 進路に向けた学力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路に向けた学力は、どのように身につけているか。集団の中で力を発揮できるか。</li> </ul> <p>(5) 幼稚部から高等部まで一緒に活動する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚部から高等部まで一緒に活動する場面はどんなときか。</li> </ul> <p>(6) 小学部の児童評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろと意見が出ているが、どういうことか。</li> </ul> <p>4 学校運営への提言</p> <p>(1) 評価が下がっている点について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どう受け止めて考えるか。</li> </ul> <p>(2) 保護者の障がい受容について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者で、障がいに対して受容できていない人がいるようだが…</li> </ul> <p>(3) 障がい受容について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが自分の障がいを認識し、劣等感を持たないで将来を考えていくような指導をお願いしたい。</li> </ul> <p>(4) メンタルケアについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい認識を含めて、いろいろな面でのメンタルケアが必要である。</li> </ul>	<p>(3) 集団の中でのかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場体験、国府中学校、岩美高校との交流などを行っている。また、来年度は大学生ボランティアとの交流も考えたい。</li> <li>・高校総体等に参加し、健聴者との交流もある。</li> <li>・聾学校陸上全国大会・中国大会等で他県の生徒とも交流がある。</li> <li>・写真でも全国での交流がある。</li> <li>・朝の自立で考える場を設定していている。</li> </ul> <p>(4) 進路に向けた学力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた授業で対応している。</li> <li>・家庭学習の工夫をした。</li> <li>・夏休みにおける補習等で対応している。</li> <li>・集団の中でも、力を発揮できている。その背景は、上記(3)の部活で培った力が大きいと思われる。</li> </ul> <p>(5) 幼稚部から高等部まで一緒に活動する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠足や運動会、学校祭。</li> <li>・交流給食を年3回実施している。</li> </ul> <p>(6) 小学部の児童評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの児童反省については、その背景について分析した。</li> </ul> <p>4 学校運営への提言</p> <p>(1) 評価が下がっている点について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・結果については真摯に受け止め、その理由を分析し今後へつなげていきたい。</li> </ul> <p>(2) 保護者の障がい受容について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいについて受容できるように保護者への支援、研修会等を行っていく。</li> </ul> <p>(3) 障がい受容について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動の時間に障がい認識ができる時間を設定している。しかし、普段からきちんと自分で受け入れるように指導していく。</li> </ul> <p>(4) メンタルケアについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちのメンタルケアのために、養護教諭や教育相談担当がかかわっていく。また、来年度はスクールカウンセラーも活用し心のケアに努めていく。</li> </ul>
---	--

<p>(5) <b>学校評価にについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標→支援→評価は大切なことだが、記述する場合にどこまで具体的に書いていくかが難しい。</li> </ul> <p>(6) <b>幼・小・中・高の連携について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何校かの学校が集まった感じだが、縦の連携を図りたい。</li> </ul> <p>(7) <b>大集団を意識して</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の小集団から社会の大集団へ行った時が大切である。心を育てることを大切にしてほしい。</li> </ul> <p>(8) <b>他の学校のよさを取り入れて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の学校のよさも取り入れ、日本一の学校にしてほしい。</li> </ul> <p>(9) <b>中学部・高等部での言葉づかいについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目上の人に対するため口が気になる。親しき仲にも礼儀が必要だと感じる。</li> </ul>	<p>(5) <b>学校評価にについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・御指摘のとおりである。来年度、どのような書き方が妥当か検討し、計画・評価を行いたい。</li> </ul> <p>(6) <b>幼・小・中・高の連携について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種行事や内容を検討し、つながりのある縦の活動になるようにしていく。</li> </ul> <p>(7) <b>大集団を意識して</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・御指摘のとおりである。他校との交流・現場体験等を大切に、常に社会という大集団を意識して指導にあたりたい。</li> </ul> <p>(8) <b>他の学校のよさを取り入れて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の学校のよさについても情報収集を行い、本校に取り入れていきたい内容について検討していきたい。</li> </ul> <p>(9) <b>中学部・高等部での言葉づかいについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲のよいことと、礼儀とは違う。TPOに応じて使い分けることができるように日々指導にあたっていく。</li> </ul>
--	---